



興性寺御見舞活動支援金 高尾山に感謝状届く

岩手県・愛宕山興性寺の司東和光御住職より、四ページに紹介させて頂きました仮設住宅訪問活動と、昨年に発生しました台風十号被災者支援活動に対し義援金が寄せられたことにつきまして、感謝状が届きました。

現在、感謝状は御護摩受付所隣の信徒休憩所にて、掲示させて頂いております。

ここに皆さまが心温まるご支援をお預け下さりましたことについて厚く御礼申し上げますと共に、活動のご報告をさせていただきます。

高尾山では、今後も義援金を募り、被災された方々へお見舞に伺い、直接お届けする活動を継続して参りますのでご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

「信じられないと思うけど、ここには町があったんだよ。」と、目の前の景色を見ながらおっしゃる寂しそうな横顔を私は今でも忘れられません。当山の大山御貫首と御住職で建立の際にお力添えをした復興祈願を願う鐘楼堂、「鳴瀬輝興の鐘」を私は特別に叩かせていただきました。

カーン、カーンと陸前高田市に響く鐘の音。叩きながら眼下に広がる陸前高田市を見て、先程の司東御住職のお話を思い出して、六年前にそこには町と港があり、住む人々の活気で溢れた町があった。しかし、今あたり一面に見えるのは土を高く盛って出来た盛り土、その上に数件だけ建っている住宅。そこには六年前の陸前高田市の面影はどこにもなく、その景色を見て私の心には寂しさや無力さがこみ上げてきました。

私はこの三日間の活動を通して、震災復興活動

とは「回向」だと思いきり、自分が行った善行が回って他者の功德となる、という意味です。復興のために自分自身が行った善行が災害で被害にあった方々に回って支援となる。募金活動など様々な支援の方法があり、そのすべてが「回向」と言えるでしょう。

この六年間をどう捉えるかは、人それぞれです。もう六年、まだ六年、世間全体でも震災に対する様々な考え方が飛び交っています。仮設住宅に住んでいる方の中には、「毎日不安だ。」と今でもおっしゃる方もいます。その不安を減らすためにもたくさんの方々の「回向」が必要ですね。高尾山でも募金活動を行っておりますので、是非ともご協力のほどをお願いいたします。

最後に被災地の一日も早い復興をご祈念申し上げます。

合掌

東日本大震災被災地への思い 仮設住宅訪問 『回向』としての復興支援

法務課 岡野 忠良



ご信徒の皆様からお預かりした義援金を司東御住職（後列左から五人目）に託した

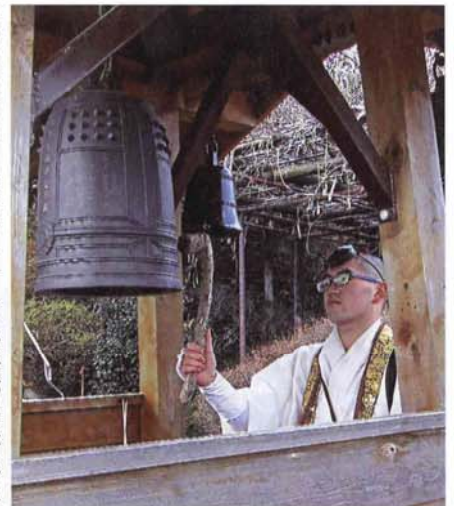
平成二十三年（二〇一）三月十一日。この日は、日本にとつて忘れられない日となりました。当時、私は高校生で埼玉の実家に住んでいま

た。昼過ぎに帰宅し部屋で着替えていたところ、十四時四十六分、突如として大きな揺れに襲われました。家の中はちらり、境内の墓石が何基も倒れ、家の外壁にヒビが入るなどの被害に遭いました。テレビ中継で放送されていた東北の映像が衝撃的で、その日に起きた事は今でも鮮明に覚えています。テレビでは東北の被害状況が連日報道され、それを見るたびに私の

心の内にモヤモヤとした歯痒い感情と、自分自身の目で現地の状況を見た、自分でも何か出来ないか、という思いが生まれました。その思いは六年越しに実現いたしました。三月八日から十一日にかけて震災の影響で仮設住宅に住んでいる方々をお見舞いする活動に参加いたしました。

この活動は岩手県興性寺の司東和光御住職が中心となって行っている活動で、興性寺も震災の被害を受けているにも関わらずに、他の被災者の方々の現状を思い活動を続け、今回で十六回目を数えるになりました。仮設住宅を訪れた際には、居住者の方々が司東御住職とお会いすると、「いつもありがとう。」と、「いつもおっしゃり、その言葉が自然と出てくるのは司東御住職が何度もお見舞いされているからこそ感謝の気持ちが出てくるのだと実感しました。お見舞い活動の内容は、

仮設住宅にある集会所にて居住者の方々とお茶を飲みながら会話をし、歌を歌い、ビンゴ大会をします。その際は居住者の方々と会話をするのに緊張と戸惑いがあります。初めてお会いする方と会話をするという緊張感もありますが、大震災という大変辛い経験をされた方々へ、まだ若輩者の私があると言葉をかけた方がいいのか、という戸惑いがありました。しかし、お会いした居住者の方々はとても元気で笑顔にあふれ、「皆さんと楽



復興成就を願い鐘を鳴らす筆者

しくお話が出来るだけで元気がもたえますよ。」と、言っていた。私は強く構えていた緊張と戸惑いが一瞬にしてほぐれ、自然と笑顔で居住者の方々と一緒に楽しい時間を過ごす事が出来ました。活動二日目、有名な復興のシンボルとなった『奇跡の一本松』がある陸前高田市の仮設住宅を訪れ、その帰り司東御住職の御厚意で陸前高田市の一派の泉増寺に連れて行っていたきました。その時、司東御住職が